

- 問1 九州地方の自然環境と地形の成り立ちについて述べた文として、阿蘇山に見られる「カルデラ」の形成理由を正しく説明しているものはどれですか。 (2024年 千葉県公立入試 類似)
- 火山灰が長年にわたって厚く積み重なり、水はけのよい広大な台地が形成された。
 - 海面の上昇や地盤の沈降によって、山がちの海岸線に複雑な入り江が形成された。
 - 河川が山間部から平野部に出る場所に、土砂が堆積して扇状の緩やかな斜面ができた。
 - 火山の噴火によって地下のマグマが噴出した後、地表が陥没して広大なくぼ地となった。
- 問2 九州地方の工業統計において、福岡県と大分県の製造品出荷額等が他県と比較して特に高い水準にある理由について、その産業背景を説明したものとして最も適切な記述はどれですか。 (2018年 香川県公立入試 類似)
- 福岡県では石炭産業が現在も出荷額の柱となっており、大分県では地熱エネルギーを利用した食品加工業が県の出荷額の8割以上を占めているため。
 - 両県ともに、内陸部の空港周辺にシリコンアイランドと呼ばれるほどの集積回路(IC)生産工場のみを集中させ、重化学工業からの転換を完全に終えたため。
 - 福岡県では北九州工業地域を中心に鉄鋼や自動車などの重化学工業が集積し、大分県では新産業都市の指定を経て鉄鋼・石油化学コンビナートが形成されたため。
 - 九州地方は全体として食料品工業の割合が極めて高く、特に福岡県と大分県においては出荷額のほとんどが農産物の加工品によって構成されているため。
- 問3 北九州工業地域の工業出荷額を産業別に見た際、機械工業や金属工業とともに主要な割合を占める産業があります。この産業の工場が、福岡県北九州周辺の沿岸部に集中して分布している主な理由として、最も適切なものはどれですか。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- 海外から輸入する原料の搬入や、完成した製品の船舶輸送に便利なため
 - 製品の鮮度を保つ必要があり、消費地である都市部に隣接しているため
 - 内陸部と比較して地価が高く、企業としてのブランドイメージが高まるため
 - 原料となる農産物を、近隣の平野部から短時間で集荷できるため
- 問4 鹿児島県の南、大隅諸島に属する南北に細長い形状をした島に関する説明として、歴史的な出来事と現代の状況を正しく組み合わせたものはどれですか。 (2018年 大阪府公立入試 類似)
- 古くから朝鮮半島との貿易の中継地として栄え、現在は大陸からの渡り鳥を観測するための大規模な自然保護区となっている。
 - 琉球王国の支配下で独自の文化を育み、現在はサトウキビ栽培とマンゴー林を活用したエコツーリズムの拠点となっている。
 - 1543年にポルトガル人を乗せた船が漂着して鉄砲が伝来し、現在は国内最大級のロケット発射場である宇宙センターが設置されている。
 - 16世紀にキリスト教が初めて伝わった地であり、現在は世界自然遺産に登録された屋久杉の原生林を保護する活動が盛んに行われている。
- 問5 沖縄県の農業は、温暖な気候を活かした亜熱帯農業が特徴です。農業産出額の品目別割合を示した統計において、さとうきびなどの工芸作物を含む項目の割合が約40パーセントに達し、全国的に見ても独自の構成となっています。この項目に含まれる、沖縄県で生産が盛んな代表的な工芸作物はどれですか。 (2017年 愛知県公立入試 類似)
- 稲 (米)
 - 野菜
 - さとうきび
 - 茶
- 問6 九州地方では1970年代以降、空港の周辺や高速道路の沿線に、集積回路(IC)などの電子部品を生産する工場が数多く進出しました。これらの工場が、港湾部ではなく内陸の交通の便が良い場所に集まった理由として、最も適切な説明を選びなさい。 (2017年 徳島県公立入試 類似)
- 製品が非常に重く大型であるため、専用の大型車両が走行できる空港直結の特殊な道路が必要だったから
 - 製造工程で大量の石炭や原油を燃料として消費するため、海外からの資源を直接搬入できる場所が求められたから
 - 製品が小型で軽量かつ高価であり、航空機やトラックを利用した迅速な輸送が重要視されたから
 - 広大な土地と大量の工業用水を確保する必要があり、人口の密集する沿岸部を避けて内陸部に集積したから
- 問7 九州地方の農業について、茶の生産状況を説明した文として正しいものはどれですか。 (2017年 岐阜県公立入試 類似)
- 福岡県は、三重県や京都府を抑えて国内で最も茶の生産量が多い。
 - 宮崎県は、九州地方の中で最も茶の生産割合が高い県である。
 - 九州地方では茶の生産は行われておらず、近畿地方が全国の生産の大部分を占めている。
 - 鹿児島県は、静岡県に次いで国内で2番目に高い茶の生産量を誇っている。
- 問8 2020年のブリ類の生産統計において、海面養殖業の収穫量が全国合計(約13万7千トン)の過半数を占めている九州地方の状況として、適切な説明を選びなさい。 (2024年 大阪府公立入試 類似)
- 九州地方は天然のブリ類を対象とした海面漁獲量が全国で最も多く、長崎県や島根県が全国の収穫量の過半数を占めている。
 - 鹿児島県が約4万3千トンと全国で最も多い収穫量を記録しており、大分県や宮崎県と合わせた九州3県で全国の過半数を占めている。
 - 海面養殖業の収穫量上位5県はすべて太平洋側に位置しており、九州地方では宮崎県のみがその中に含まれている。
 - 海面養殖業よりも海面漁獲量の方が全国の生産量は多く、九州地方では養殖よりも北海道などから運ばれる天然ものの流通が中心である。
- 問9 1978年から2018年にかけての沖縄県の観光に関する統計資料を分析すると、観光客数と観光収入の双方が著しい成長を見せていることがわかります。この約40年間の変化について、数値の推移から読み取れる事実として最も適切なものはどれですか。 (2024年 群馬県公立入試 類似)
- 観光客数は大幅に増加したものの、観光客1人あたりの消費額が急減したため、観光収入の総額は1978年当時の水準を維持するにとどまった。
 - 観光客数は1978年の約140万人から2018年には約1000万人に達しており、観光客数の増加に連動して観光収入も大きく拡大した。
 - 観光客数はこの期間に8倍以上の増加率を記録しており、それまでの主要産業であった農業の生産額を統計開始直後に上回った。
 - 1978年と比較して、観光客数の増加率よりも観光収入の増加率が極端に低くなっており、観光産業の経済への影響力は年々低下している。
- 問10 宮崎県において、冬でも温暖な気候を活かした農業が発達した理由を、海流の性質と地形の観点から説明した記述として最も適切なものはどれですか。 (2021年 東京都公立入試 類似)
- 沖合を流れる暖流が周囲の気温を下げにくくし、さらに北部の山地が冬の冷たい季節風を遮る役割を果たしているため。
 - 北部の山地から吹き下ろす乾燥した冷たい風が、暖流の湿った空気と混ざり合うことで、ビニールハウス内の温度を一定に保つため。
 - 寒流と暖流がぶつかる潮目にあたるため海面温度が安定し、平野部を流れる河川が常に霧を発生させて作物を保護するため。
 - 沖合を流れる寒流が夏場の気温上昇を抑える一方で、南側の平野部が日射を長時間受けることで年間平均気温が高まるため。
- 問11 宮崎県ではピーマンの生産が、沖縄県ではサトウキビの生産が盛んである。また両県ともにマンゴーの生産が全国的に有名である。これら両県に共通する気候的な特徴を活かした農業の説明として、最も適切なものはどれか。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
- 冬の積雪が多い気候を活かし、春先の豊富な雪解け水を利用して大規模な稲作を行うとともに、冬の間は出稼ぎや工芸品制作を行っている。
 - 高冷地の涼しい気候を活かし、夏から秋にかけてキャベツやレタスなどの高原野菜を栽培し、出荷時期を他の地域とずらしている。
 - 大都市に近い立地を活かして、鮮度が重要な野菜を生産し、輸送費を抑えて短時間で消費地へ届ける近郊農業に注力している。
 - 温暖な気候を活かし、ビニールハウスなどを利用して成長を早めて出荷時期をずらす促成栽培や、熱帯・亜熱帯の作物の栽培が行われている。